

## (4) 沖縄周辺重要水産資源調査

### 調査概要

#### 1) 個体生態調査

漁獲物を通じて成長と年令、成熟、産卵系統群、回遊等について知見を得る。

a) 体長測定調査(魚種:カツオ類、タカサゴ類、トビウオ類、トビイカ)

b) 体長、体重調査(魚種:上記魚種)

c) 胃内容物、生殖腺調査(魚種:上記魚種)

#### 2) 漁獲量調査

a) 水揚地調査(魚種:上記魚種とハマダイ、ハマフエフキ、スジハタ類、アオリイカ)

b) 標本船調査(カツオ竿釣、追込網)

#### 3) 標識放流調査(カツオ)

### 結果

沖縄本島、宮古島、石垣島の3地域でカツオ竿釣の漁獲量調査を行ない、あわせて体長、胃内容物、生殖腺調査、標本船漁獲量調査を行った。沖縄本島の本部では昨年の74%、宮古島は38%、石垣島は59%の漁獲量で不漁年であった。しかし南方基地のカツオ竿釣漁獲量は昨年の2倍以上で豊漁であった。タカサゴ類を沖縄県漁連市場、トビイカを糸満漁協市場、トビウオ類を県漁連、糸満漁協市場で漁獲量調査を行ないあわせて体長、胃内容物、生殖腺調査を行った。タカサゴ類は510トンの漁獲量で昨年の1.6倍、トビイカは23.5トンで昨年の76%、トビウオ類は、県漁連は23トンで昨年の168%、糸満漁協市場は2.3トンで昨年の31%であった。県漁連、那覇地区漁協、糸満漁協市場のセリ帳より、ハマダイ、ハマフエフキ、スジハタ類、アオリイカの集計を行った。県漁連市場は、4種ともそれぞれ増加したが、那覇地区市場は4種とも減少した。糸満漁協はハマダイ、スジハタ類が増加、ハマフエフキ、アオリイカが減少した。なお、詳細については、昭和51年度沖縄周辺重要水産資源調査報告書で報告済みである。